

Graded Direct Method Association of Japan

News Bulletin

東山

第28号

英語教授法通信

1976年5月20日

編集・発行・GDM英語教授法研究会 事務局 〒154 東京都世田谷区豪徳寺2-27-19 吉沢美穂方 TEL. (429) 5929

Are We Good Teachers?

吉沢 美穂

ここにある教師の像がある。その人を描写して、私たちが自分を見つめる指針にしよう。

彼（実在の人物ではないのだから彼女でもかまわないが、Basic Englishのhead wordを使うことにする）は平凡なふつうの教師であるが、いつもキチンとした服装をしている。度々手でかき上げないと目の上にかぶさってくる髪や、体を動かす度にずり落ちるスカーフなどは、1時間も見ていなくてはならない生徒にとっては、気になってしょうがないということをよく知っている。

ある時自分の声をテープで聞いて、力のないかぼそい声で、教える文をただトナエているだけだということに気が付き、声の出しかたから練習を始めた。今では、ひびきを持った力強い声で、どんな簡単な文でも、相手に話しかける実感を持って言えるようになった。

生徒は彼を友だちのような先生と思っているが、彼のほうからは生徒と同じレベルに立った友だちではない。熱心さ、親しさの裏にある冷静な目が自分と生徒を見つめている。たまには生徒をシカルことはあっても、感情に流されてオコルことは決してない。

彼自身の英語は、大部分の私たちと同じようにして習ったので、特によいというわけではない。現在の彼が一番努力していることは自分の英語力を伸ばすことである。ある時自

分のreadingを録音してレコードの声と比較してみた。自分では大丈夫と思っていたことさえ、レコードと比較すると、いろいろ欠点が見えてきた。個々の音はもちろん、リズム、イントネーションも気になってきた。彼は前から教室でレコードを使っていたが、今では生徒に聞かせることよりも、自分のために使う時間のほうが多くなった。

前には生徒の進度よりすこし先までよくできていれば教えられると思っていたが、EPⅡまでをすっかりマスターしてしまった現在、以前の自分の英語の力がどんなに貧弱なものであったか、どんなに初歩的な誤りをしていたかに気がついた。現在は生徒の前で誤りをおかすことは絶対になし、他の教師がそのような誤りをおかすのを聞くと、それは、You is……と同等の誤りとしてすぐに気がつくようになった。彼は現在は多くの本を読んだり、聞くことによって、EPⅡ以上の一般的な英語力を付けることに努力している。

英語の力が付くと共に、個々の語の語感が自然に感じとれるようになった。たとえば、前にはidiomとして丸暗記していたget it doneのような句が、getの語感ができ、doneの受動的な意味が感覚として備わった今では、“doされたものをgetする”と、あたりまえの使いかたに思えてきた。

彼がGDMを始めて間もなく、研究会で、

My key is in the box. の文で in に強声がかかったと指摘された。彼は不満だった。この授業の目的は in, on にある。重要だから生徒にはっきり聞かせたい。だから強声をおくことになる。しかし自分の文が不自然だったのはなぜだろう。強声をかけても不自然でない situation はどうすればよいか。そうだ。同じものを場所だけ変えて on と対照すれば、My key is on the box. My key is in the box. と in に強声がかかる。なお自分は My に強声がかかる。My key is on the box. Your key is in the box. というような situation 以外は my に強声はかからないのだ。この時から彼はとにかく operation に強声がかかる自分のくせに勝つことができた。強声をかけたい時は、それに適した situation を作ることができるようになった。

彼は授業の前には細心の plan をたてる。しかし生徒の反応によって plan をいつでも変更できる。生徒の心の動きを反射的に感じとり、いつも生徒中心の授業をするので、生徒が自分の予期していない文を発表しても、ドギマギすることはない。予定していた練習が終らなくても、生徒が“まだ続けるの？”

と思う一瞬前に他の活動に切りかえることができる。同じ文の練習でも、live から絵に、個人活動からグループ活動にかえるだけでも生徒にとっては気分転換になることがわかった。生徒が文を言えない時は、文そのものと言えないのか、発表する文の内容で困っているのかの区別がつくようになった。

彼は標準的な、あまりこらない situation しか使わない。しかし個々の教材の抽象のレベル（本誌第27号，p. 3参照）をよく心得た使いかたをする。しかも個々の教材を十分に使いこなすことに注意しているので、多くの種類や数を必要とはしない。目標の文型を実生活に近い話題に応用することに努力しているが、不自然な英語にならないようにいつも注意している。

彼はもう E P の同じ場所を何回も教えているが、その度に新しい発見があり、コーフンする。現在彼は G D M を外部の人に適確に説明できるように理論の勉強をもう一度やりなおしている。

Is he a good teacher ? If so, are we as good as he is ?

English

Through Pictures

SBS (株) スクールブックサービス

〒160 東京都新宿区高田馬場1-26-5

F I ビル 4 階

電話 03-200-4531

Textbook I with 1st workbook	650円
Textbook II with 2nd workbook	650円
Textbook III	650円
Recording Series I and II (set)	
— For textbook I and II 該当 —	10,000円
Film strips I	15,000円



Adieu! Bonjour!

京都 梶川 忠

半年間の約束で始めた京都「ほんやら洞」の仏語教室もあますところ一ヶ月となった現在、ぼくはこの教室をもったことを嬉しく思っている。

ぼくは別段GDMの信者でもないし、あらゆる外国語教授法には長所も欠点もあると確信している。今までのぼくの仏語に関して言うなら、従来の文法・訳読式（これがぼくの仏語の大根となっているのは言うまでもない）L・L授業、現地生活等によってつくられている。ぼくにはこれらのどれがよいか決められないし、決める気もない。ただ色々な教授法を知るのは有益と考えているだけだ。だから話しがあった時にも特別の期待はもたなかったし、むしろ適任かどうかさぶる疑問に思っていた。仏文の大学院仲間たちと比べても、発音が少しましなのと言語にいささか興味をもっている位が取柄なのだから。さらに家庭教師というもっともポピュラーな教授法すらも経験したことのないぼくには、GDMで仏語を教えることは（むしろ教えることそのものか？）難行に感じられたのである。

しかし幸いなことが二つあった。EPとFPのページ配分がほとんど同じであること。つまりFPのあるページの項目がEPの同ページにのっていること。だからEPのhandbookを大いに活用することができた。なにしろGDMの学習気分を味わうために買ったGPや

SPは、最初の数ページを見ただけでやる気をなくしてしまったのだ。

よきadviser のいたこと。最初の頃週一回の授業の前に必ず相談して、situation のつくり方は勿論、時間やenergy の配分、授業中の目線の向け方に至るまで細かく教えてもらったのである。もっとも今でも習熟したとはとてもいえず、12人いた生徒が5人に減ったのはこのせいかもしれない。ぼくはまだ力んだり興がのらなかったりを繰返しているのだ。だがこれは生徒との相対関係でもあり、大人のくせに正直な、時には思いもかけぬ反応を示す彼らに今では興味と恐怖を感じている。

だから問題はぼくの仏語力であった。handbookのおかげでそれほど力がなくても教えられる英語と違って（この本が素晴らしいのだと理解して下さい!）誰も相談する人はなく、すべてを自分の仏語センスと参考書で進めていかなければならないのだ。さらにFPにのっているような単語は、大学一年の時に仏和で頭にたたきこんだまま辞書に相談することもなく過ごしてきたものばかりで、実際に教える段になると仏仏辞書をひいてもあまりに基本的で茫漠としており、意味のレベルの決定に苦しんだものも少なくなかった。

もっともそのおかげでぼくの仏語の知識は確実となり、はたして現在の教室が生徒と教師のどちらにより貢献しているのかわからない程なのである。

追：この教室の期間は一年に延長された。

News news

- ★ アメリカ語学研修旅行（7月25日～8月15日 ￥395,000）を横浜アカデミー語学研修センター（Tel 045-311-5361）で計画を進めている。詳しいことは黒川 忠美氏へ
- ★ 中郷 安浩氏（大阪市大助教授）がアイルランド政府の奨学金を受け1年間留学。
University College, Galway, Galway city, Ireland 今年の8月に帰国予定。
- ★ 公開講座 1976年5月22日（土）午後2時～5時 東京YWC A講堂 授業実演：千葉大付属中2年生 keepについて 指導 根古谷常雄、講演：吉沢美穂、司会：田幸 徹

～ルポ～

GDMを利用している語学センターの報告

GDMを利用して英会話研修をしているある企業の事例をここにあげてみる。

〔研修のねらい〕

研修の内容を以下の2点に留意して徹底訓練した。

- ① 日常生活及び事務の円滑な遂行に必要な最低の英会話（聴くこと、話すこと）を訓練する。
- ② 外国人に対するコンプレックスを取り除くために、これに必要とされるあらゆる訓練を行う。

〔研修の内容〕

- ① 研修に使用する教授法

Graded Direct Method を全期間（1週5日、1レッスン2時間、計50レッスン100時間 約2.5ヶ月間）にわたりこれを使用した。

- ② Hearing 能力の養成

① LLの訓練を通してHearing 能力の養成と、発音の訓練を行った。

② GDM A WORKBOOK FOR ADULTS の完全録音テープを使用し、ナチュラル・スピードの英語の聴取能力を養成した。

③ 期間中のLL schoolingを利用して外人講師を導入し、生の外人の会話に慣れさせた。

④ 毎レッスン15～20分のHearing Practiceを行う。

- ③ 英会話力の測定

期間中に3回のCheck Up Testを実施した。

- ① 1回目、絵を見て質問に答える。

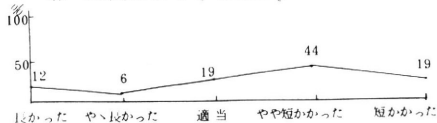
② 2回目、やや抽象的な質問に答えるテスト。

③ 3回目、絵を見ての口答による自由作文。

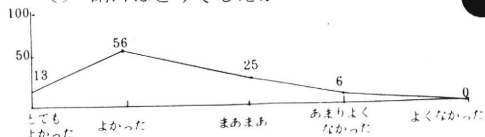
④⑤⑥とも個人テストとし、LL教室で同時に一斉に試験をした。

英語研修についてのアンケートをとってみた結果以下のようなことが得られた。

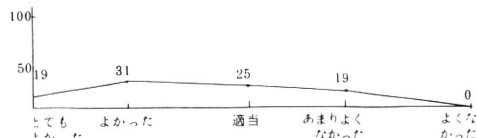
- ④ 期間はどうか。



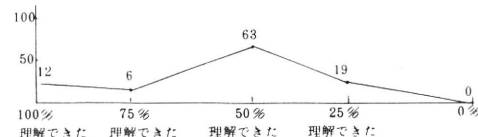
- ⑤ 講師はどうか。



- ⑥ 内容（GDM方式）はどう思いますか。



- ⑦ 内容はどの程度理解できたと思いますか



その他、研修生に意見・要望を書かせてみた。

1. 日常語、慣用語、言葉の習慣、相づち、応答など身近な日常会話の勉強をしたかった。
2. 復習の補足説明はよかった。
3. 復習の時間はもう少し時間を長くした方がよい。
4. GDM方式はよかった。

（横浜アカデミー 黒川 忠美）

ある公立学校における生徒の反応

東京都港区立赤坂中学校 箕田 兵衛

50年度の新入生に対して、私の持ちクラスの生徒全員(126名)に English Through Pictures を持たせた。1年間やってきて、三学期の末にアンケートを取ってみた。

英語の授業に対するアンケート

- [1] 英語はどちらかということ
A 好きな教科だった B きらいな教科だった C どちらとも言えない
- [2] 英語はどちらかということ
A わかる教科だった B わからない教科だった C どちらとも言えない
- [3] 英語が一番わかったのは(楽しかったのは)
A 一学期のとき B 二学期のとき C 三学期のとき
- [4] 一番わからなかったのは(つまらなかったのは)
A 一学期のとき B 二学期のとき C 三学期のとき
- [5](イ) 日本語を使わない授業について
A 英語をやっているという感じがした
B その場に応じて言えるので楽しかった
C 正しい答がひとつでないので自由に言えた
D 45分間の授業で自由にしゃべることができた
E 自分の思っていることが言えた
F 自分でイミを想像し、コトバに対するカンがついた
G 日本語で説明しなかったのが不安だった
H 日本語でイミを教えてもらえず不安だった
I 日本語に訳す力が不足した
J いったんわからなくなると全部わからなくなる感じ

K 教科書(検定用)を見なかったのが不安だった

[6] その他、感じたことを書いて下さい

アンケートを集計してみると以下のような結果が得られた。 男64名 女62名 計126名

- [1] A 男25名 B 男13名 C 男25名
女28名 女15名 女19名
- [2] A 男20名 B 男22名 C 男24名
女26名 女13名 女22名
- [3] A 男23名 B 男17名 C 男24名
女19名 女14名 女27名
- [4] A 男24名 B 男24名 C 男15名
女21名 女25名 女11名
- [5] A 男34名 B 男17名 C 男13名
女27名 女12名 女12名
- D 男7名 E 男9名 F 男35名
女4名 女10名 女24名
- G 男24名 H 男28名 I 男16名
女28名 女38名 女10名
- J 男25名 K 男23名
女28名 女23名
- [6] 1 日本語を使わないのはよかった (8名)
2 英語の時間が来るのが楽しかった (10名)
3 レッスンごとの単語のテストがよかった (25名)
4 他の授業よりリラックスできた (1名)
5 日本語を説明してほしい (2名)
6 動作でなんとなくわかった (2名)
7 教科書にそってやってほしい (1名)
8 一学期、二学期の先生の独特な授業がよかった。自由に考えたり想像したり
あの  と  とても楽しかった。

I AM HERE

GDM サマー・セミナーに参加して

千葉 天野 隆司

GDMの御殿場セミナーに参加しました。8月19日から23日までの短い合宿生活でしたが学んだものは、はかり知れません。それは僕にとり、別天地の出来事でした。

研修は午前中3時間、午後4時間行なわれ、僕が出席したCクラス(未経験者対象)の内容は、①モデル授業見学、②基礎理論、③授業方法の実習、その他全クラスを対象にした特別講義(室先生のBasic English等)と、全体会議、そして夕食後には、自主プログラムとして、第2外国語、つづいてさまざまなグループ活動が9時まで行なわれます。

トレーニング(実習)には苦勞しました。僕たちは、English Through Pictures Iの各項目をひとりひとり当てられ、クラスの仲間を生徒にして授業をやらなければなりません。大部分の人たちが日頃、教壇に立っている先生でしたが、みんなあがってしまい、先生いじめの好きな生徒たちの前で立往生してしまいました。そして声がか細くなると、いつのまにか室の片隅に立っていた吉沢美穂先生の鋭い声がとんできて、震えあがってしまいます。吉沢先生はすばらしかった。GDMの先生たちは、みんな素晴らしかった。真剣で、情熱的で、それぞれ個性的で、人間的魅力に溢れた人たちでした。

夕食後行なわれる第2外国語学習は、GDMで英語を学ぶ子供たちの経験を、僕たちに直接実感させるための企画でした。僕たちは自分のまったく知らない外国語クラスに出席し、GDMによる授業をうけるのです。楽しかった。言葉を覚えることが、こんなに楽しいこととは思ひもよませんでした。室から出てきた生徒たちはロビーにあふれ、互いに

今、習ってきたばかりの外国語を興奮して叫んでいました。

5日間のセミナーは意外性に満ちた、人間のドラマでした。そのひとつひとつを今ここに記すことはできません。ただ、なんであれ、それが教育であるかぎり、その中心にいつも人間が存在することを、僕はこのセミナーを通じて肌身で感じることができました。その意味で、EPがI am here. で始まることは象徴的です。「私」が存在する。ひとりひとりが「私」から出発する。そこにGDMの精神があるのでしょうか。

ニュース・にゅうず

★ 神戸YWCA主催 第10回英語教師養成セミナーを開催(4月24日~10月23日の毎週土曜日 午後3時~6時) 講師 小高一夫氏など。連絡先: 〒651 神戸市葺合区上筒井通1-1-20 神戸YWCA Tel. 078-231-6201

★ 朝日カルチャーセンター(東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル Tel 03-344-1941)で4月から「基礎英語」講座としてGDMの授業をしている。(吉沢、升川他8名) この他、関東地区では東京YWCA(午後6時より豊川、山田他3名)、文恵高等看護学院(豊川)、小学館(根古谷)、東京女子大学同窓会グループ(吉沢)、横浜YMCA(弘田、安田他7名)、鎌倉婦人子供会館(小林)、戸塚アカデミー(小川、島)など。

★ 名古屋地区では、名古屋YMCA、南山YMCAで斉藤直美さんを中心にGDMの授業をしている。少しずつではあるが私立の中学校にGDMが広がりつつある。3月6日~7日名古屋YMCA青少年センターでSeminarを行なった。

★ 関西支部の月例会を関西支部研究会に改める。研究日を5月8日(土)、9月22日(水)、11月2日(火)とし、場所は日本生命中之島研修所に固定。

GDMの授業を受けての感想

担当 津谷俱子・山田初裕

東京YWCAの生徒 三瓶 健君の場合
英会話というものを初めてやり始めたわけですが、今まで僕が学んで来た英語（中学・高校・大学）がどんなに希薄で、中途半端なものであったか、再認識した次第です。

大学で建築学科を専攻しているせいか、語学からは遠ざかるばかりで、就職をひかえた最近ようやくやる気というのかそんな感じで通いはじめた次第です。授業そのものは“聞いて話す”というごく単純な作業に思えるが、すべてのコトバが新しく聞え、毎日が緊張の連続!!

佐々木 淳君の場合

大学生として、多少のはずかしさを持ちつつYWCAの英会話を勉強しようと思ったのは、なんとしてもこれまでの英語教育の成果が私にとって、何ら英会話の能力をさずけてくれなかったところにあります。

私は大学生として建築学を専攻しているわけですが、建築については大いに自信があるのですが、これからの建築家というものは、世界を舞台に活躍かつ創造活動をしていく必要があると思うのです。

多くて20名程度で行っているせいか、とても緊迫感があり、わが前頭葉にさわやかな印象とともに記憶に残るようで、とても英会話が楽しく学べるようになりました。

大塚 南海代さんの場合

基礎も何もわからず入学しましたが、ここまで何んとかついてこれたのも、あまりむずかしい言葉でもなく、一つ一つ自分のものとなっていくのが楽しかったからだと思います。

型にはまったものをそのまま暗記するやり方より、自分の知っている言葉で何とか意志を表現できるようになればよいと思います。

GDM Library

英語指導法ハンドブック〈導入編〉

吉沢美穂・その他4名編集（4月発刊）

大修館書店 ￥8600

本書の特徴

1. 中学・高校で扱うほとんどすべての「文型」「文の種類」「文法事項」260項目を取り上げた。
2. 上記の項目の「導入」に重点を置き、「練習」も加味した。
3. 教室で行なう通りを具体的に示した。
4. 板書、機器の使用、絵などを明示した。
5. 各項目間の連絡にできるだけ留意し、関連既習事項を明示した。
6. 各指導例について、その「特色・ネライ」を明らかにした。
7. 「GDMによる授業の進め方」等々を付し、理論的基盤を明らかにした。

言語理論の生かし方 升川 潔著

開隆堂 英語教育ライブラリー第8巻

￥1800

本の内容のあらましは、まず言語理論一般、言語学、言語をとりまく諸分野についての要領のよい解説の後

- ① アメリカ構造言語学＋行動主義心理学 → オーラルアプローチ
- ② 生成変形文法＋認知心理学 → 生成変形文法を応用した教授法
- ③ リチャーズの意味論＋ゲシュタルト心理学 → GDM

について、理論の解説、教授法への応用、現場から見たまとめが述べてあります。

地球の家を保つには

エコロジーと精神革命

ゲリー・スナイダー著 片桐ユズル訳

社会思想社 ￥1300

六甲セミナーに参加して

(3月26日～29日)

名古屋 山中 皓子

六甲山の上は、下界ではもう桜が五分咲き位になろうという頃でも、いまだ冬である。なにしろ寒い。そのせいか、参加者もなんとなく集まって話す、というよりも、小さなグループで、あるいは部屋単位で話がはずむ事が多かったようだ。

今年のセミナー参加者は、講師を含めて百十名。クラスは経験者1クラス、初参加者2クラスと人数が多かった為か、自分のクラス以外の事は、ほとんどわからずじまいだった。

私達の導入に際しての中心課題は、不自然な言い方、状況の示し方に対しては、頭でおかしいと感じる前に気分が悪くなり、つまり体で感じる位でなければならない、という事だった。クラスで導入してうまくゆかないと講師の先生方は批評をする前に、どこがよくなかったのか、なぜいけないのか、どうすればよかったのか、という質問をして、私達に考えさせる場合が多かった。上手な人の導入は参考になったけれど考えに考えたすえ、う

まくゆかなかった人の導入も、私達の英語のとらえ方の盲点や弱点を示していて、よい勉強になった。クラスで課せられる項目を、頭ではわかっているつもりでも、皆の前で実際に導入してみると霧の中に入ってしまったように、とらえ所がなくなってしまう。

講義の中で、言葉自体が伝える意味は、20パーセントであり、言葉にならない意味はた

今年も御殿場へどうぞ

とき：1976年8月19日(木)～8月23日(月)
4泊5日

ところ：日本YMCA同盟 東山荘
静岡県御殿場市東山

一般クラスの他に Advanced Seminar
なみのクラスもつくる予定にしています。

くさんある、という話があった。導入がうまくゆかないというのは、語だけを抽出して、いじくりまわしている所にも原因があるようだ。とにかく、英語を体得し、言感を得る道は、険しく遠いと、ため息の出る思いである。

第6回 公開講演会 (関西支部主催)

日時 1976年6月5日(土) 午後2時～5時

場所 関西電力ビル2F

大阪・地下鉄 四ツ橋線 肥後橋下車

授業実演と講演がある。

司会 片桐ユズル

講演 アジアに於ける英語とナショナルリズム by David Bogget

(京都大学人文科学研究所員)

京都精華短期大学講師

Editor, of Robin Magazine

〈編集後記〉

わが教授法研究会にとって一番うれしいことは、本年の4月に大修館書店より英語指導法ハンドブック〈導入編〉が発刊されたことである。原稿は3年前に出来あがっていたが、出版社の都合でいまだ眠っていた。

もう一つおもしろいことは、京都の「ほんやら洞」で梶川忠さんがGDM方式でフランス語を教えていることだ。英語以外で教えてみたいという人は、おおいに参考にすべし。

(根古谷・梶川)